

NUグリーン — 名大のスクールカラー —

名大のスクールカラーが「NUグリーン」として公式に定められたのは意外に新しく、2012(平成24)年のことです。もっともこれは、濃緑(ダーク・グリーン)が長い間名大の色と考えられてきた歴史を踏まえてのことでした。

1963(昭和38)年、現在も毎年刊行している名古屋大学体育会の機関誌『濃緑』が発刊されました。その創刊号の巻頭には、「『濃緑』=ダーク・グリーンとは名古屋大学のスクールカラーである。濃は不屈・永遠を表わし、緑は若さを表わすものである。」とあります。

学生が書いた同号の編集後記には、数年前に濃緑がスクールカラーと決まったそうだが、「何かうやむやの形になっていた」ので、「ここで再び生かしてやろう」という意気込みの第一歩が『濃緑』の発行となった、と書かれています。名大カラーとしての濃緑の歴史は、1950年代の終わり頃までさかのぼることがで

きるようです。

その後、1998(平成10)年に「名古屋大学学章取扱要項」が定められ、「NUマーク」が公式な学章となりました。ただしこのNUマークは、色の変更は可能とされ、実際には濃緑を使うことが一般的ではあったものの、本来の色は黒(と白)とされており、スクールカラーを定めたわけではありませんでした。

そして2012(平成24)年、急速にグローバル化する世界に向けてのビジュアルイメージを統一し、ユニバーシティ・アイデンティティの確立をはかるため、NUマークをシンボルマーク(学章)としてリデザインし、これと8種類のロゴタイプを組み合わせた公式シンボルロゴ「名大マーク」が定められました。

名大マークでは、親しまれてきた濃緑を特に選定し、原則として黒・白以外には濃緑しか使用できなくなりました。色彩も厳密に決められ、これを「NUグリーン」としたのです。



1



2



3

- 『濃緑』創刊号の表紙。同号の編集後記には、「ダーク・グリーンとは、あの海岸に生える松の色である。何にも負けず、不屈の精神、恒久の若さを保つ色である。」とも書かれている。
- NUマークの公式学章化を報じる『名大トピックス』第53号(1998年2月)。NUマークは、1958年に学生バッジのデザインとして学内公募され、その入選作品を元に作られた。ただこの時は濃緑の色は付いていなかった。また、68の応募作品においても緑を使ったものはほとんどなく、まだ濃緑は定着していなかったとみられる。
- 名大マーク(8種類の中の4つ)。名大マークについて詳しくは、名大のHPの「名大マーク」の項を参照。

BRIEF HISTORY OF NAGOYA UNIVERSITY

名古屋大学基金のご案内

名古屋大学が優れた人材輩出や世界的な研究成果により、今後も日本や地域に貢献し続けるには、安定した独自財源が必要です。「名古屋大学基金」はその基盤であり、皆様からのご寄附を、さまざまな事業に活用させていただきます。何卒ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

ご寄附のお申込み、お問い合わせはDevelopment Office (DO室) まで(電話052-789-4993、Eメールkikin@adm.nagoya-u.ac.jp)にお願いいたします。

詳しくはホームページをご覧ください。

名古屋大学基金



<http://www.nagoya-u.ac.jp/extra/kikin/> アクセスはこちらから▶

人を伸ばす、明日を創る、世界と歩む



特定基金

名古屋大学基金の中には、研究推進や人材育成など、支援目的を特定してご寄附いただける事業もご用意しております。

